



↑平成29年2月から北永井第3区で住民ワークショップを開き、地域の支え合いの手段を話し合いました。

住民ワークショップには20人ほどの地域住民が集まり、北永井第3区の特徴を考えました。北永井第3区は住民同士の

り組みを行う地区社協が立ち上がり、地域活動に積極的。協議体「ささえあい・みよし」に北永井第3区の区長、日下部辰男さん(73)が参加していることも選考の後押しとなりました。

によって変わってきます。協議体「ささえあい・みよし」では、地域に適した手段を考える住民ワークショップを開催。モデル地区として1か所を集中的にサポートし、その経験を2か所目以降に活かし、町全体に広めていく方法を採用しました。

### モデル「北永井第3区」

モデル地区に選ばれたのは北永井第3区。北永井地区は平成26年10月に、地域の課題を住民の助け合いによって解決する取



問い合わせ  
健康増進課地域包括支援センター  
☎ 049-258-0019 (内線 188)  
三芳町社会福祉協議会  
☎ 049-258-0122

支え合いの仕組みを地区ごとに作る動きが広がっています。2か所目として藤久保第1区で住民ワークショップも始まることになりました(P17)。暮らしやすい町にするため、全ての地区で必要となる支え合いの仕組みづくり。皆さんの地区でもどんな仕組みを作ることができるか、一緒に考えてみましょう。

### 繋がりがあがるにつれて

北永井第3区は一軒家も多く、自治会を通じて自然と顔見知りが多くなります。他の区と比べても繋がりは持ちやすく、住民の地域活動も活発です。繋がりを続けていくために今、支え合いづくりをしっかりと行わなければならないと思われました。

協議体「ささえあい・みよし」から引き継いで、これからは自分たちがこの支え合いを続けていかなければと思います。地域ごとに住民同士の繋がりが異なるため、地域に合った支え合いづくりを進めてほしいです。



北永井第3区区長  
日下部 辰男 さん (73)

距離感が近く、気さくな人が多いのですが、大勢が集まって過ごすことのできる機会や場所が多くないため、「何気なくみんなが集まれる居場所」が必要という意見が集まりました。世間話や愚痴の延長で悩みを逃さず共有し、地域で解決することが、北永井第3区の支え合いの形だという結論に至りました。

するのが協議体「ささえあい・みよし」。地域で支え合いの仕組みを作るにはどうしたらいいのかを考えてきた協議体です。

支え合いの仕組みには色々な手段があります。例えば声かけや見守り、サークルやサロンに同伴すること、趣味のお誘いをするなどです。

人口や住宅環境、近隣との繋がりなどの環境が異なるため、どの手段を取るべきかは、地域



↑平成28年6月、町民向けフォーラムで協議体「ささえあい・みよし」の発足を宣言しました。

## 日

常の小さな困りごと。例えば「スーパーが遠くて買い物が大変」「一人じゃ怖いから、一緒に散歩する仲間が欲しい」など、行政や介護サービスに頼むほどではない悩みがそれに当たります。

困りごとと一緒に解決する仲間を作り、地域に支え合いの花を咲かせる活動が「ささえあい・みよし」です。「なんとかできたらいいよね」と悩みを身近な人に相談し、共有するところから支え合いは始まります。

## 支えあいのコミュニティ

悩みを共有するためには、個々の悩みを揃い上げる仕組みづくりが必要です。

その仕組みづくりをサポート

## 「持ちつ持たれつ」の地域づくり

地域の支え合いづくりをサポート

# ささえあい・みよし

☎ 健康増進課地域包括支援センター ☎ 049-258-0019 (内線 188)  
☎ 三芳町社会福祉協議会 ☎ 049-258-0122



## 悩みを共有。地域で解決。

公的サービスでは対応できないような「悩みごと・困りごと」。地域で支え合い、解決するためにはそれを共有する仕組みが必要です。地域の支え合いづくりをサポートする「ささえあい・みよし」。ちょっとした困りごとを「お互いさま」で支え合うことで、地域はどのように変わっていくのでしょうか。

(右) 北永井第3区のワークショップ。自分たちの地域でどのように支え合いをするのか話し合います。  
(左) 支え合いのための居場所で悩みごとを共有する人たち。